

◇岩手日日 令和5年1月22日(日)

図面や模型 成果並ぶ

水沢工高インテリア科展

奥州

奥州市の県立水沢工業高校(日當仁己校長)の第43回インテリア科展は21日、同市水沢字横町のメイプルで始まった。学びの総まとめを迎えた3年生を始め、同科生徒の学習成果を作品などを通して公開している。22日まで。

同科は1968年の開校時、胆江地方の南部鉄器や岩谷堂筆筒たんすなどの制作に携わる人材の育成を狙った工芸科として創設。建築分野のカリキュラムも加え、73年に現在の名称となった。2022年度は計85人が在籍。展示は学習成果を紹介しようと毎年この時期に開いている。

会場には各学年の成果物を展示。このうち3年生は、建築、家具両班でコンセプトから考えて取り組んだ建築図面や模型、家具などを並べた。

家具班の加藤晴人さん(3年)は「経験豊かな先生方の力も借りたが、完成できて達成感があり、また作ってみたい気持ちがある。展示には3年間の集大成が詰まっている。これまで保護者の皆さんに成果を見せる機会も少なかったので、成長ぶりを見てほしい」と話していた。

入場無料。最終日の時間は午前10時~午後4時。



生徒による成果物を展示している水沢工高のインテリア科展